

## 代表質問

## コロナ禍と令和2年7月豪雨の復旧・復興に向けて、誰ひとり取り残されないまちづくりを



動画視聴



社民・国民民主・護憲クラブ  
古庄 和秀 議員

### 市長の政治姿勢とコロナ禍における令和2年7月豪雨

**問** 令和2年7月豪雨を受けての市長の思いと復興への決意を聞きたい。

**答** 7月6日からの記録的な豪雨により、大規模な被害が発生した。改めて今回災害でお亡くなりになられたお二人の方の御冥福をお祈り申し上げます。また、被災者の皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

被災された皆様が一日でも早く元の生活に戻っていただけるよう、国や県の支援策を最大限活用するとともに、市独自の支援策も加え、市職員一丸となって、被災者支援と復旧事業に全力を挙げていく。

**問** 当日の避難状況と今後の課題について聞きたい。

**答** 当日は、10時16分に自主避難所23か所を開設した。

避難者数は、雨が激しくなる前の14時時点では、2世帯2人、23時時点で最大となる1,690人の方が避難された。

課題は、道路冠水などの被害状況の把握が困難で、通行止めなどの情報発信が十分でなかったこと、各避難所の備

蓄物資が不足したこと、早期避難につながらなかったことなどが挙げられる。

このような課題について、現在、大牟田市令和2年7

月豪雨災害検証委員会において検証中の提言も踏まえ、今後の対策に生かしたい。

**再発言** 避難経路はホームページでの公表を検討されたい。

また、避難所の空き状況だけではなく、収容人数を表示して、事前に分散させる方策を、ぜひ検討されたい。



(市民体育館における避難所)

**問** 市民生活への影響と今後の課題を市長に聞きたい。

**答** 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、市民生活や飲食店等の事業継続など、社会経済全般にわたって大きな影響が続いている。

こうした中、7月豪雨災害が発生し、被災された市民や事業者の皆様には、さらに深刻な影響を及ぼしている。

市民の安全・安心で安定した生活を一日も早く取り戻すことが喫緊の課題である。

今後とも災害からの復旧・復興並びに新型コロナウイルス

感染症対策に関わる施策を着実に実施し、市民生活と事業者の支援に全力を挙げる。

**問** みなと校区の被災者の訪問状況と課題を聞きたい。

**答** 県の協力もあり、1,534世帯を訪問し、うち851世帯の方に会い、健康状態の確認、相談への対応を行った。

課題は、家屋の片づけ等による疲れや、雨や水に対する心理的な影響等で、中長期的な心のケア等を行っていく。

**再発言** 会えていない約半数の方への対応も検討されたい。

### 令和2年7月豪雨と浸水被害

**問** みなと校区住民から3年前に提出された集中豪雨対策の要望書で、浸水緩和対策と三川ポンプ場強化の検討を要望され、市も回答をしている。

この平成29年の要望と今回の浸水に対する考えは。

**答** 前年度の集中豪雨を受けての要望で、三川ポンプ場は、排水機能の増強も検討してほしいという要望書であった。

要望に対し、市内の雨水ポンプ場全体を、白川ポンプ場完成後に検討すると回答した。

今回の豪雨を受け、三川ポンプ場の排水機能の早急な増強が必要であり、新たなポンプ場の整備に向けて取り組む。

**問** 今後の豪雨を見据えた総合的な排水対策を聞きたい。

**答** 近年の豪雨は一層厳しくなり、豪雨災害検証委員会の検証結果を踏まえ、総合的な排水対策の強化に取り組む。